

寫字人を送る

四行

五二行

12R
100年
時
15年
15年

100年
15年
15年

多木太一は、高橋孝如小説家向けに新聞や

雑誌の編集班の顧問を務め、高橋孝如を撮ら

れたりするが、その数多く太一向けに、稀に

細君の芳枝の並ばせれるくらおび、家中揃つ

て、といふ高橋孝如娘んど無。自叙傳の高橋

五人

屋へ行くといふこと付なにかり、一家親を揃

へた高橋孝如は無かつた。

みんないふ大分大きくなつたし、こつちの友

成例して茶室に居たりかから、そろそろ家中

揃つた高橋孝如を撮つときといふんかぬ

そろそろかぬ

木の赤穂母さんとへ送つて、びつくり

させたりやういぬ

びつくりして、まゝと。七、八年子

片を先取りして。六年、七年

角白送付

203

17